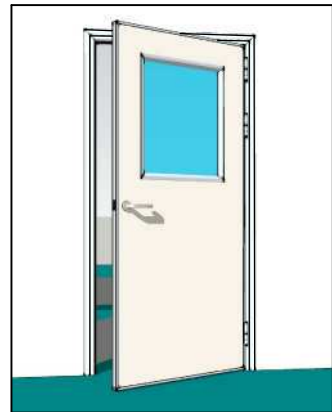

軽量開きドア (パネル付タイプ)
取り付け説明書 Ver1



株式会社 富士商会

台東区台東4丁目30番7号

☎ 03(3831)4186

1 パネル開口枠の取り付け

1-1 開口枠(チャンネル)を、同梱のネジでパネル開口部に取り付けます。(図1-1参照)
(弊社手配のアルミ若しくは樹脂製開口枠で、血穴加工済みの場合は、血ドリルネジM4X16が同梱されています。)

※この際、レーザー墨出し器等を使用して、チャンネルの水平、垂直を確認してください。(図1-2参照)

※パネル開口枠はアルミ製、樹脂製、金属製の曲げ物枠等現場によって仕様が異なります。弊社別途手配の場合もあります。承認図をご確認の上、適切な取り付けネジ、取り付け方法をご選択ください。

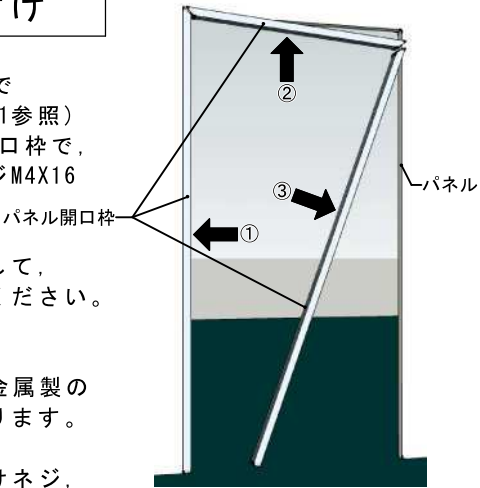


図1-1

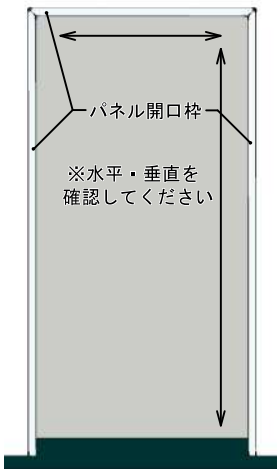


図1-2

2 ドア枠の設置

2-1 ドア枠の上枠(下枠)端部のLアングルに取り付けられているネジ(通常は血ドリルネジM4X16)を一旦外し、上記Lアングルをたて枠端部に差し込み、外したネジで固定します。(図2-1参照)

※この際、端部の留め加工部分が合うように、固定してください。

※片開きで標準的なサイズのものに関しては、予め三方(四方)に組んだ状態となっています。

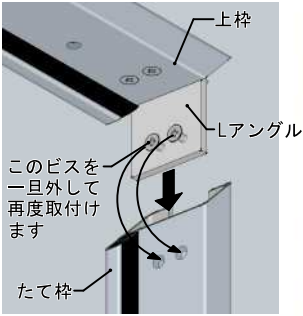


図2-1

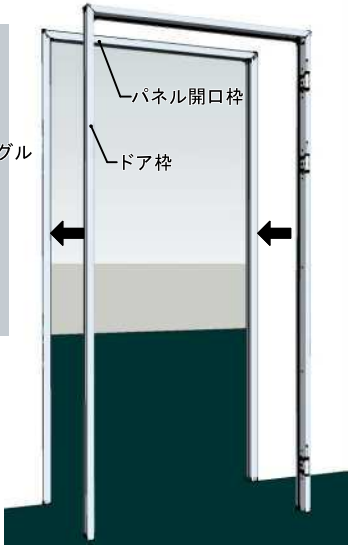


図2-2

※上図は三方枠片開き

2-2 組み上がったドア枠をパネル開口枠内に嵌め込みます。(図2-2参照)

2-3 嵌め込んだドア枠を同梱の血ネジにて固定します。(図2-3, 4, 5参照)
(上枠とたて枠をパネル開口枠に取り付ける場合、アルミ製の枠用には血ドリルネジ(M4X50)、樹脂製の枠用には血タッピングネジ(M4X50)がそれぞれ同梱されています。)

2-4 四方枠をコンクリート床に設置する場合には、下枠の取り付け穴の位置の床面に3.5φで下穴を開け、同梱のプレスアンカー(M4X45)で下枠を固定します。

※開口枠・床面の仕様によっては上記のビス等が適当ではない場合があります。現場に合わせて適切な取り付けビスをご使用ください。

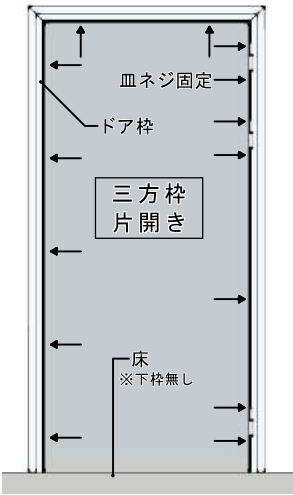


図2-3

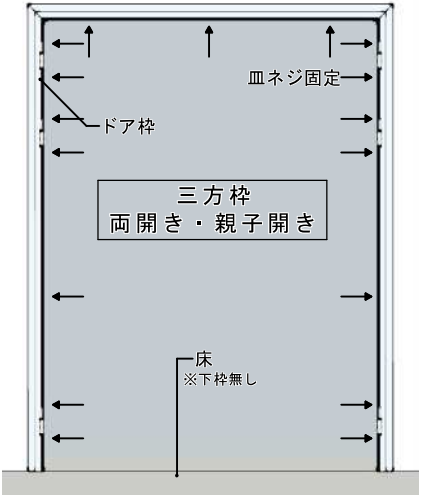


図2-4

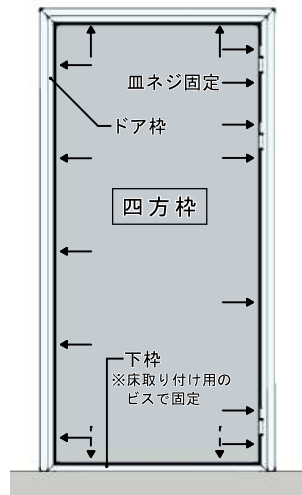


図2-5

3 ドアの吊り込みと位置調整

- 3-1 ドアを開いた状態にして、ドア側の丁番を枠側の丁番のピンに差し込みます。(図3-1参照)
- 3-2 ドアの下上、出入位置を調整する場合には枠側丁番用ネジ(通常5本)と丁番下の調整ネジを少し緩めて行います。(調整ネジは完全に取外さないようにしてください。)(図3-2参照)

※調整後は枠側の丁番が傾いていないか、枠側とドア側の丁番の連結部分に隙間が生じていないかを確認の上、緩めたネジをしっかりと締め付けてください。

- 3-3 ドアを吊り込み後、ドアとたて枠との隙間が均一になっていることを確認してください。もし、戸先が下がっている場合にはドア側の下段の丁番の丁番用ネジ(通常5本)を少し緩め同梱のアルミ製ライナーをドア側の丁番とドアエッジとの間に挿入します。(図3-3参照)

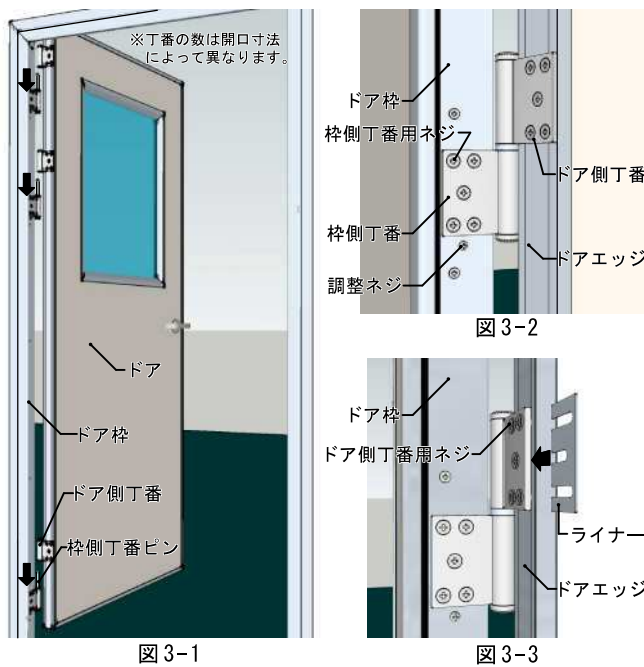


図3-1

図3-2

図3-3

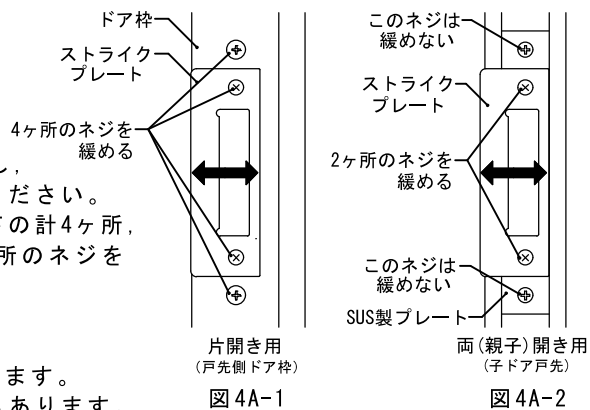
※通常、最下段のドア側の丁番部分には、出荷時にライナーが一枚挿入されています。戸先の隙間を広げたい場合には、ライナーを外してください。

4 錠・オプション類の設置・調整

4A 錠・ハンドル類の取り付け・調整

- 4A-1 ハンドル類のドアへの取り付け・調整は、メーカーの説明書をご参照ください。
- 4A-2 ハンドル類を取り付け後、ドアの開まり具合を確認し、必要な場合にはストライクプレートの出を調整してください。片開きの場合にはストライクプレート上及びその上下の計4ヶ所、両(親子)開きの場合にはストライクプレート上の2ヶ所のネジを少し緩めて調整を行ってください。(図4A-1,2参照)調整後は各ネジをしっかりと締め直してください。

※ストライクの形状、大きさは錠の種類によって異なります。また、錠の種類によっては調整できない仕様のものもあります。



片開き用
(戸先側ドア枠)
図4A-1

両(親子)開き用
(子ドア戸先)
図4A-2

◆三方枠ズリ仕様の場合

4B ズリパッキンの調整

- 4B-1 ドア下部のエッジとの間にズリパッキンを挟んでいるアルミフラットバーの調整ネジを緩めて、ズリパッキンの高さ位置を調整してください。(図4B-1参照)

※ズリパッキンは長めに設定してありますので、調整しても長すぎる場合にはハサミなどで切断してください。

◆三方枠で両(親子)開きの場合

4C 床付け受け坪の設置

- 4C-1 子ドア上部のフランス落シを上枠に固定した状態で、子ドア下部のフランス落シのロッド棒を下げ、ロッド棒が床面に当たる位置を確認します。その位置に14.5φ、深さ29mm以上の穴加工をし、穴内の粉塵を取り除いてからカバーと受け坪を挿入します。(図4C-1参照)

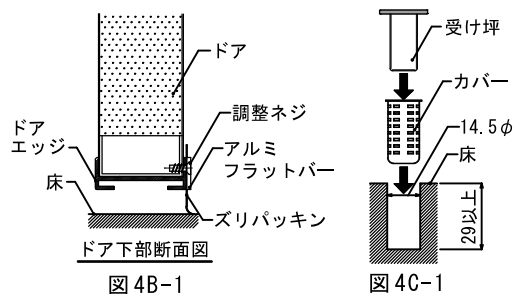


図4B-1

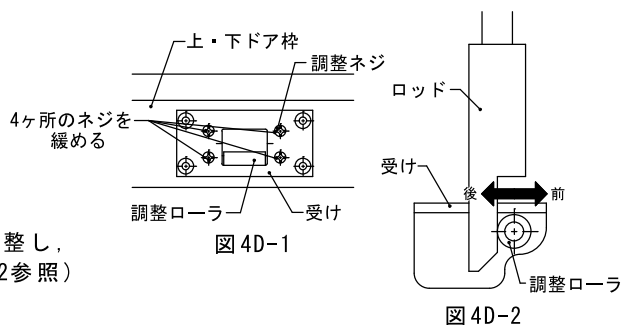
図4C-1

◆グレモン錠の場合

4D グレモン受けの調整

4D-1 ドアを閉めた際の戸先の出入りを調整する場合には、グレモン受けの調整ネジ(4ヶ所)を緩めます。(図4D-1参照)

4D-2 受け内部の調整ローラを前後に動かして位置を調整し、調整後に緩めた調整ネジを締め付けます。(図4D-2参照)

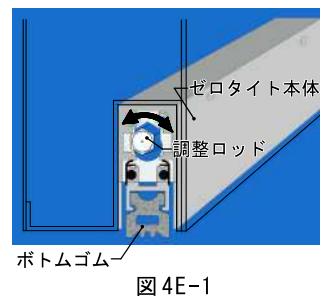


◆ゼロタイト仕様の場合

4E ゼロタイトの調整

4E-1 ドアを閉めた際、ボトムゴムが床面に密着していることを確認します。この際、ボトムゴムと床面の間に名刺などを差し込み、ボトムゴムが均等に床面に触れている程度になるよう、調整ロッドを回して調整を行ってください。(調整ロッドを出し過ぎると、ボトムゴムが床面に強く当たり過ぎ、ドアが閉まり難くなる原因となります。)

※ボトムゴムはドア幅より長めにしています。長すぎる場合にはハサミなどで切断してください。



◆ドアクローザが付くドアの場合

4F ドアクローザの取り付け・調整

4F-1 ドアクローザの取り付け・調整につきましては、メーカーの説明書をご参照ください。

※リヨービ製のドアクローザの説明書は右のコードのリンクからご覧いただけます。



5 仕上げと確認

5-1 必要に応じて、パネル開口枠とパネル、ドア枠の隙間に、コーキングで仕上げを行います。(図5-1参照)

5-2 枠やドアの表面材に貼られている養生フィルムをはがします。

※ドアの表面材に貼られている養生フィルムで、ドアエッジや窓枠に挟み込まれているタイプのものは、それぞれの境目に慎重にカッターナイフの刃を入れて養生フィルムを切断し、はがしてください。

⚠️ ご使用上の注意

- ・錠前のハンドルやラッチボルトにぶつからないように気を付けてください。(図5-2参照) 当たってケガをしたり、衣服を引っ掛けて転倒したりする恐れがあります。
- ・ハンドルにぶら下がったり、足場にしたり、ものを掛けたりしないでください。危険ですし、錠前が正常に機能なくなる恐れがあります。
- ・錠前やドアクローザは分解、改造しないでください。中の部品が飛び出してケガをしたり、正しく組み立て直すことができなくなる恐れがあります。
- ・錠前の受け金具(ストライク)の穴に指をいれしないでください。(図5-3参照) 指を切ったりケガをしたりする恐れがあります。
- ・鍵穴に油や異物を入れないでください。故障や汚れの原因になります。
- ・ドアの開閉時には、ドア枠とドアの間に人がいないこと、また障害物が置かれていないことを確認してください。
- ・戸先側上端部及び下端部にロッドが突出する仕様になっている場合には、必ずドアの開閉時にロッドがドアより突出した状態になっていないことを確認してください。
- ・ドアクローザは、ドアを自動で閉じるためのもので、油圧によりゆっくり閉じる構造になっています。季節の温度変化や窓などの開閉によって誘発される屋内の気圧の変化などにより、ドアの閉じる速度が変わることがあり、極端に速度が速くなるとケガをする恐れがありますのでご注意ください。

